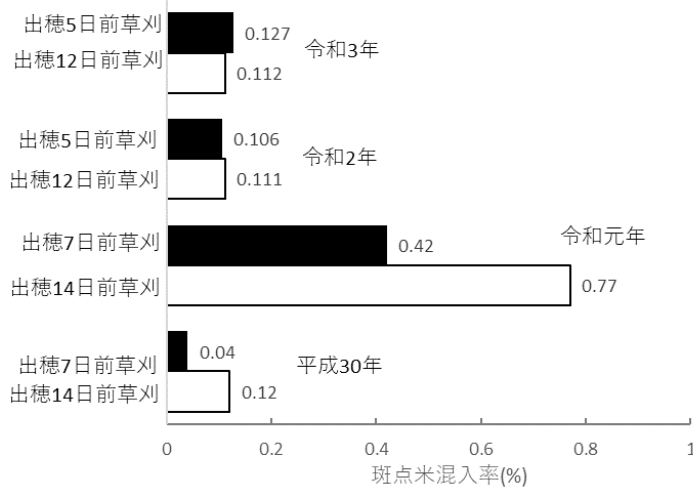


[水稲部門 令和4年度 指導参考資料]

事項名	斑点米被害の低減に有効な水稲出穂前に行う畦畔除草時期の晩限		
ねらい	これまで、斑点米カメムシの耕種的防除法として水稲の出穂14日前までの畦畔除草が推奨されてきた。一方、近年の報告や発生状況を踏まえ、水稲出穂前に行う畦畔除草の晩限を出穂期に近い時期とし、畦畔イネ科雑草の再出穂時期と斑点米混入率を検討した結果、斑点米被害の低減に対し一定の効果が認められたので参考に供する。		
指導参考内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 斑点米被害低減に有効な水稲出穂前の畦畔除草の晩限 水稲の出穂7日前までに畦畔の除草を終える。 2 畦畔除草時期を水稲の出穂期に近づけた場合の斑点米混入率 除草時期を水稲の出穂期に近づけて出穂5～7日前としても、斑点米混入率は出穂14日前に除草した場合と比較して概ね同等か低い値となる(図1)。 3 畦畔のイネ科雑草の再出穂時期 畦畔除草時期を水稲出穂5～7日前とした場合、これまでの「水稲の出穂14日前まで」とした場合より、長期的に畦畔イネ科雑草の再出穂を抑制できる(図2)。 		
期待される効果	これまでより、長期的に畦畔イネ科雑草の再出穂を抑制し、斑点米被害の低減と畦畔雑草管理の軽労化が期待できる。		
利用上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 本資料は令和4年1月18日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。 2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/) 3 畦畔の草刈のみでは斑点米被害を抑えられないため、薬剤防除は適切に実施すること。 4 移植後の草刈回数1回で実施した試験結果である。 5 高温等が予想され、水稲の出穂が早まる見込みとなった場合は適宜除草時期を調整すること。 		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 病虫部 (0172-52-4314)	対象地域及び経営体	県内全域の水稲作付経営体
発表文献等	平成30年～令和3年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】



(注) 品種：「まっしぐら」
 播種：2018、19年：4月12日、
 2020、21年：4月13日
 移植：2018、21年：5月17日、2019
 年：5月16日、2020年：5月14日
 斑点米混入率は殺虫剤無散布区の全
 面から250穂を抜き取った2~4反復
 の平均値

図1 除草時期および年次別の斑点米混入率（平成30年～令和3年 青森農総研）

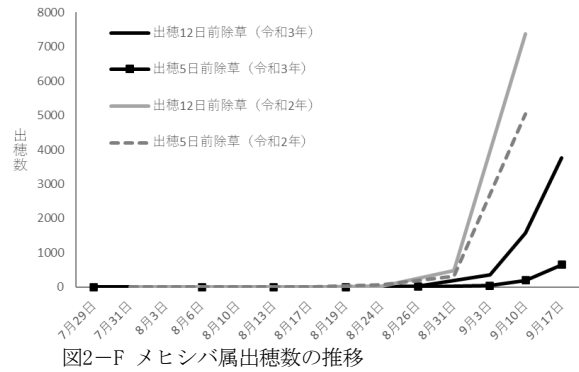
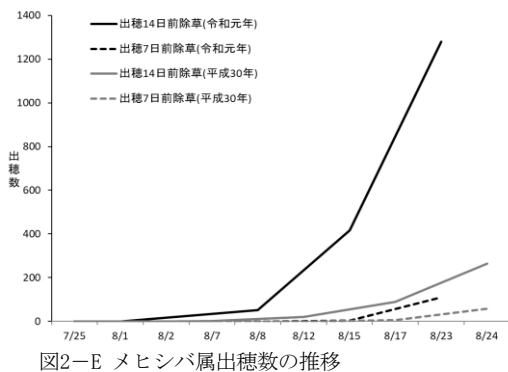
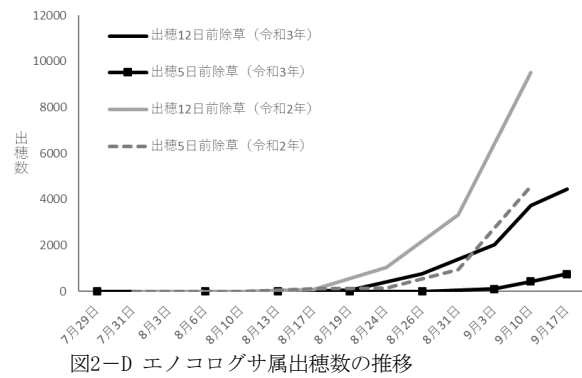
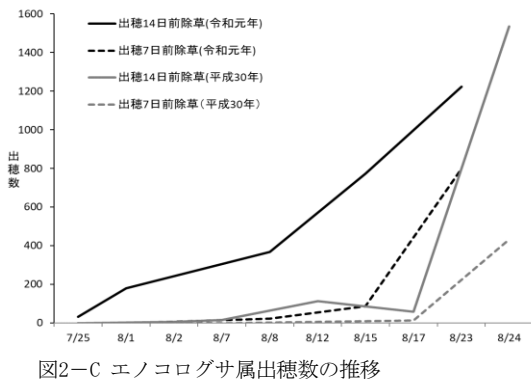
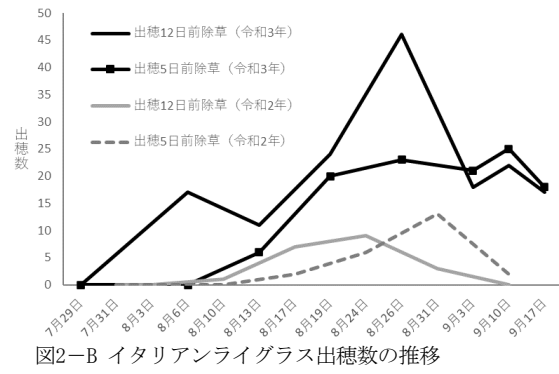
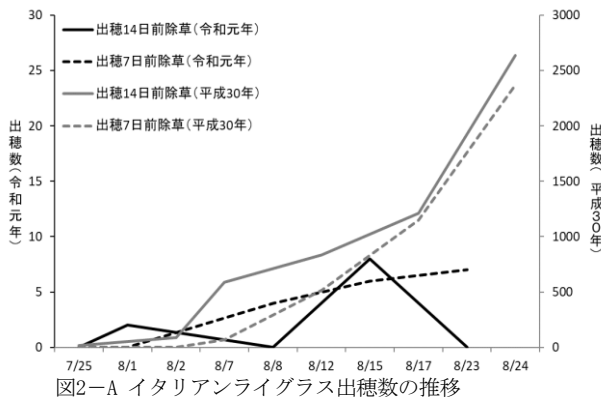


図2 除草時期別の畦畔イネ科雑草の出穂数の推移（平成30年～令和3年 青森農総研）